

# 逆風の観光地

## 道内客に照準

### 客室無料格上げ、お菓子贈呈、イベント券付きも

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、国内外から道内を訪れる観光客が落ち込んでいることを受け、定山溪や層雲峡などの観光業者が道内客の誘致に乗り出している。イベントの入

場券が付いた宿泊プランを打ち出すなどして客離れを食い止め、観光需要の底上げを図る。

道内で17の宿泊施設を展開する野口観光(登別)は、子ども料金を一律550円にした。1日5室限定で客室を無料でグレードアップするなどの「感謝特別プラン」の販売を始めた。

日本旅行北海道は、定山溪、登別、洞爺湖で大型ホテルを展開する万世閣(胆振管内洞爺湖町)と連携し、宿泊客に温泉まんじゅうを1人1箱プレゼントするプランの販売を始めた。

万世閣は中国人団体客を中心にキャンセルの影響を受けており、定山溪の「ホ

テルミリオース」予約課の寺本直人係長は「地元の人

が温泉に行くと思うきっかけになれば」と語る。日本旅行も「好評なら他にも導入したい」と意気込む。

日本旅館協会北海道支部連合会がまとめた1月の道内宿泊実績は、前年同月比5・8%減の53万2060人。感染拡大で、国内客にも旅行を控える動きが広がっている。2月はさらに落ち込むことが予想される。

層雲峡観光協会(上川管内上川町)などは、大手5ホテルの宿泊代と開催中の



定山溪ホテルミリオースの「温泉まんじゅう」。日本旅行のプランで申し込むと1人1箱付く

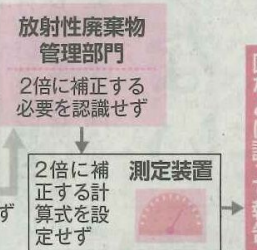
のカラカミ観光(札幌)は道内でのテレビCMを増や

# 泊放出量 情報共有せず

## 過少報告問題 縦割り浮き彫り

北海道電力は、泊原発後

志管内泊村)から大気中に



放出している放射性廃棄物の量を31年間実際より半分

泊原発の放射性廃棄物過少報告をめぐる構図

設備設計部門 2倍に補正する必要を認識

間にわたる問題の見直しにつなげたこととした。北電は、部門間で重要な情報を漏れなく引き継ぐ仕組みを構築することなどを再発防止策に盛り込んだ。

記者会見した北電の勝海和彦・原子力部長は「放射性廃棄物管理部門には設備が正しく設計されているという思い込みがあった。専門分野に偏らず、他の部門にも視野を広げていければ、誤りに気付くことができた」と釈明した。

原子力規制委員会は保安規定違反に当たる可能性がある」として調査しており、5月ごろに結果を示す方針。原発の危機管理に詳しい広瀬弘忠(東京女子大名誉教授「災害リリスク学」)は「津波災害など過酷な状況では、連携不足で安全に対処できず、大事故を招く恐れがある。風通しの悪い企業体質を根本から改善する必要がある」と指摘する。

(佐々木馨斗、岩内江平)